

大会規則及び選手注意事項

1 本大会は、2025年度（財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項及び申し合わせ事項により実施する。

2 競技者の招集

- (1) 事前に欠場が明らかな場合には、朝の受付時にエントリーシートの種目欄に赤線を引き提出すること。受付後にケガ等で欠場をすることになった場合、TICで欠場届を受け取り、記入して招集所へ提出する。
- (2) トラック種目の招集所は100mスタート地点付近の器具庫の外（競技場外）に設ける。フィールド種目は各種目のピットに集合すること。
- (3) 招集は出場できる服装で集合し、係員の指示に従うこと。

招集時間の基本は次の通りとする。組ごとに招集時間を設定するので、大会日程の招集完了時間を確認すること。下の招集開始時間よりも早く来ることを禁止する。

		招集開始	招集完了
トラック	予選	招集完了時刻の10分前	タイムテーブル参照
	準決勝		
	決勝		
フィールド	投擲	競技開始 25分前	タイムテーブル参照
	跳躍	競技開始 35分前	

※棒高跳は競技開始60分前を招集完了とし、競技場内の練習時間をとる。

※円盤投は競技開始40分前を招集完了とし、競技場内の練習時間をとる。

- (4) 四種競技の招集については、トラック競技・フィールド競技ともに招集所とする。
- (5) リレーについては、メンバー全員で集合すること。

3. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

		練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
走高跳	男子	1.20/1.50	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.65	以降3cmきざみ
	四種男子	1.10/1.40	1.20	1.25	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	以降3cmきざみ
	女子	1.00/1.30	1.10	1.15	1.20	1.25	1.30	1.35	1.40	1.45	以降3cmきざみ
	四種女子	1.00/1.30	1.10	1.15	1.20	1.25	1.30	1.35	1.40	1.45	以降3cmきざみ
棒高跳	男子	1.60/1.80	1.60	1.80	2.00	2.20	2.40	2.60			以降10cmきざみ
	女子		1.60	1.80	1.90	以降10cmきざみ					

4. 走幅跳・投擲競技

- (1) 走幅跳・投擲競技は競技3回終了時点の上位8名には、さらに3回の試技が与えられる。ただし、参加人数と競技日程を考慮し、試技回数を変更する場合がある。
- (2) フィールド競技から次の競技に移動する際には、必ず競技役員に伝えること。

5. トラック競技

- (1) ゴール後は、メインスタンド前を通過してはならない。ただし、ゴール後にフィールド種目にすぐに出場する選手はメインスタンド前を通過してもよい。
- (2) 不正スタートは1回で失格とする。四種競技は2回目以降の不正スタートをした者が失格となる。
- (3) 3000mは、男女同時にスタートする。招集完了後の最終出場者数によって、3000mの2段階スタートを設定する。

6. リレー競技

- (1) リレー予選のオーダー用紙は事前に作成し、朝の受付で提出すること。リレー決勝のオーダー用紙は招集完了1時間前までにTICへ提出する。リレーオーダー用紙については、事前にホームページからダウンロードしたものを使用すること。
- (2) 予選では予めエントリーした選手から2名以上が走らなければならない。決勝では予選で走った4名中の2名以上が走らなければならない。(エントリー以外の選手が走る場合は大会プログラムに記載された選手)

7. 本大会においてバックストレートを使用したレースは行わない。また、天候に応じて、タイムテーブルの時間の変更がありうる。

8. アスリートビブス・腰ナンバー標識

- (1) 小中体連指定のアスリートビブスを各自で用意すること。
- (2) アスリートビブスを必ずユニフォームの胸・背両面に着けること。跳躍種目はどちらか一方でも良い。
- (3) 申込ナンバーからの変更は認めない。

9. 競技用靴

日本陸上競技連盟競技規則TR5に基づいて大会に参加すること。

- (1) スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳は12mm以内とする。いずれの場合も本数は11本以内とし、先端が鋭利なものは使用できない。
- (2) 厚底シューズに関する規定は以下のとおりである。

種目	最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目	20mm	走幅跳・走高跳・棒高跳・砲丸投・円盤投・ジャベリックスローに適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目	20mm	100m、150m、200m、400m、800m、1500m、3000m ハードル、リレーに適用。

- (3) WA(国際陸上競技連盟)が承認しているシューズを使用すること。
- (4) シューズの中には、規定に触れる厚さのものが市販されているため、失格とならないように事前に確認すること。※例：砲丸投に出場する選手が、シューズを履いて試技を行おうとしたが、厚さが20mmを超えていたため、その靴では出場できない。四種競技の砲丸投も同様である。
- (5) 昨年度まで許可されていたシューズであっても、現行ルールに則り、競技終了後違反が認められた場合には、その記録については認められない。

10. 各種目1位の者に中学選手権証、2・3位に賞状を授与する。

表彰については、ユニフォームでは行わず、Tシャツやジャージで行う。

11. ウォーミングアップ

- (1) ウォームアップエリアとして補助競技場を使用できる。
- (2) 選手と指導者のみ入場することが可能になる。
- (3) 雨天走路は走幅跳の待機場所となるため、当該種目の選手以外の立ち入りを禁止する。
- (4) バックスタンド下の走路はチームベンチエリアとなるため、ウォーミングアップでの使用を禁止する。

(5) 補助競技場での走高跳、砲丸投ピットの使用は、役員のいない中では禁止とする。棒高跳については、補助競技場のマットの使用は禁止とする。

12. その他

- (1) 選手の競技場入口は100mスタート地点付近のゲートのみとする。
- (2) スタンドでの応援については、メインスタンドでの応援は禁止とする。
- (3) 7:30～競技場内のメインスタンド・バックスタンド下のチームベンチの設営が可能だが、競技場内の横断幕設置、応援ベンチ設営は7:45～とする。ただし、横断幕、応援ベンチの設営はバックスタンド・サイドスタンドの中段以上にすること。
- (4) チームのベンチは、各チームの責任において設置すること。補助競技場内、公園内の備え付けのベンチに設置することは禁止する。
- (5) 大会運営のために必要に応じて競技役員より指示が出されたときはそれに従うこと。
- (6) 物品の管理について、各自の責任において紛失・盗難等のないように注意すること。
- (7) 写真撮影を行う際は、TICにて許可証をもらうと共に、撮影に係るルールを必ず守ること。
- (8) ゴミの処理については各校持ち帰りを徹底し、競技場や公園内に残していかないこと。